

寫真週報

內閣情報部編輯
六月廿二日・第九十號・第十卷

昭和十五年六月二十二日
東京新聞社發行
每份十錢
全年一元二角
半年六角
零售每份十錢



南の據點・臺灣
全國安全週間





銃後に築く

漁村篇

所・千葉県安房郡千倉町忽戸
時・六月下旬

(観察日記から)

……には、横大根の花が、さやさと初夏の風にゆれてゐた。

……にパンツだけをつけた、てんぐさ鏡りの女達は、うす紫の花むらさ、ひよひ、ひよひ、と飛びかへてゆく。

そんな處にだけ、女らしさが感じられるやうな遠しい忽戸の女達。

この部落代々の女達は、女と労働の問題を、生活がさせる一つの習俗として、あつさり解決してきた。そして、新しい女の生命が生まれることに、その肉體には、男と同等に働く力が育まれ、男のやうな骨格が形づくられてきたのであつた。

今年、男の大部分を外洋漁業に送り、尙幾人かを戦地へ送つて、女が渡る村に、非常時の色は濃くない。然し、部落は身しろきもしない。何故ならば女達は、昔から、男の留守を顧るべく十分鍛へられてあつたから。

(忽戸區長堀江政吉氏の話)

……この女達を御覧下さい。よそでは、銃後を離れ、といふので急に女達も働きたしたやうですが、此の部落では、年産二百萬圓のてんぐさの収入も女の働きで、部落半分分の食糧を作る水田十一町歩畑十一町歩も、殆んど女が耕作して居ります。今年、てんぐさの値が下落しましたが、その分を補はふといふので、生産力の確保増進を合言葉に、講堂の時は畑、干潮の時は海、と朝四時から夜の七時まで、あの通り働いて居ります。昔から、幸か不幸か女も男と一緒に働く習慣が、非常時の今日大變役に立つて居ります。男といふ男を全部御國に連れて、働きの部落の限りでは、女だけで立派にやつてゆけます。……ああ、向ふから来た女は、出征兵の一人田中健松上等兵の妻女です。……貧しいながら、立派に留守を顧りませうと、いくら、軍需扶助をうけて、とすゝめても、聞きませなんだ。……なんと雄雄しい家族の姿を見ると、老の涙もろさで、つひ泣かされますわい。……(次頁へ続く)

海こそ最愛の母——太平洋の大きなふところに抱かれて、たくましく育つた忽戸の乙女。



腸疾患に

ビオフィェルミン

武田發賣品



腸カタル
慢性下痢
腐敗性下痢
食傷・鼓腸
消化不良に

小兒下痢
乳兒緑便
食慾不振
栄養障害
常習便秘に

整腸
ビオフィェルミン中の乳酸菌は腸内腐敗及び異常醗酵を除き腸機能を正常に復して下痢症を安全に消滅せしむ。

殺菌
この乳酸菌は、同時に腸内の有害細菌を死滅せしめ、毒素の吸収を防ぎ、腸内容を清浄ならしむ。

消化
ビオフィェルミン中の糖化菌は澱粉及び蛋白質を消化し栄養分の吸収を佳良ならしめ便通を整えしむ。

**傳染性腸疾患
豫防と保健に**
ビオフィェルミンの常用は疫痢腸炎、赤痢、腸チフス、コレラ等の恐るべき傳染性腸疾患に對し、豫防と強壯の効果を収む。

甘味料、服用料易なる
製法と品質、各處藥房にあり

發賣元 株式会社 武田長兵衛商店
大塚市東區大塚
製造元 株式会社 神戶衛生實驗所
神戸市東區二番町



↑ 共同の仕事に無駄は無い。魚崎神社の境内に建てられた農事実行組合作業所には、精米器や水揚機が備へつけられた。経験に教へられながら、ぐんぐん仕事の能率を上げてゆく女達。満潮の間に忽ち茶をこき終る。

↑ てんぐさの荷造りを終れば、夕餉の仕度をしなければならぬ。坊やも乳を待つてゐるだらう。この、男に勝る強い生活力だ。「たをよめ」の時代は過ぎた。忽ちの女のごとく、飲後の女性に頼へよ。



↑ 午前五時。眼のしぼりを破つて起床の太鼓は、漁村道場一パイに響きわたる。今日は、沖に出て習習だ。なまの海に向つて、胸一ぱいに朝風を吸ひこめば、沖に、希望の陽は上る。

(千葉縣漁村道場要覽の一部)
 教育項目
 精神教育 皇國精神・漁業道徳(毎週五時間)
 實業教育 水産法制・水産經濟・海洋知識・主要水産物の増殖方法・主要水産物の生態・主要漁獲物の處理加工・主要なる漁具・漁船・漁船轉運に関する知識・漁船運航航海に関する知識・衛生大意・栄養知識・農業・副業・習字・珠算(毎週二時間)
 武道・教練、實習、公民教育等。



↑ 日常の村經濟をまもる女達にとつて、てんぐさは重要資源の一つである。干潮時になると、老いも若きも、荒波が崖を喰ひ海中に落つて働く。磯から歸る村の女達。向つて右が田中みや子さん。(解説委員)

↑ 漁業協同組合の指導で、採取から出荷まで、すべて女の手で行はれる。共に歌ひ、足の力を合はせて、てんぐさを踏みあげ、潮で磨かれた顔で、東西の夕映えが染めてゆく。



(田中みや子さんの話)
 ハイ、夫が出征してから、十五になる養女と二人暮らしです。田三郎、畑三郎を小作してゐますが、とても一年分の食料にはなりません。あとは、てんぐさ採り、あわび採りの収入で、子供を養育し、食へてきました。他の女達のやうに私も、長い水溜り仕事で耳の腫れを破り、今日の頃は、てんぐさ採りも思ふやうではありません。女は女同志と、前を分けてくれたり、部落でお金を下さつたり、皆親切にして下さるので、それを何よりの力にして、夫が芽出たく戻れるまで、女の細腕ながら、立派に留守を離り通すと思ひます。

所・千葉縣夷隅郡勝浦町串濱
 時・六月上旬

(視察日記から)

出濱の千葉縣漁村道場には、縣下の各地から選ばれて集つた、歳十八歳から二十五歳までの青年五十名が、漁村厚生館の前庭たるべく激しい訓練に全力をうちこんでゐる。

長期に對して、事變からくる様々な影響を處理し、漁山漁村の生活をいつかり支へてゆくには、青年の持久力に依らねばならない。

又、事變後、急激に變遷してゆくであらう新日本の針路に沿つて、如何に農山漁村のゆくべき道を確立するか、といふ一大課題にこたへるのも青年でなければならぬ。

此處にも又、新しい使命に生きよとする青年の姿がある。

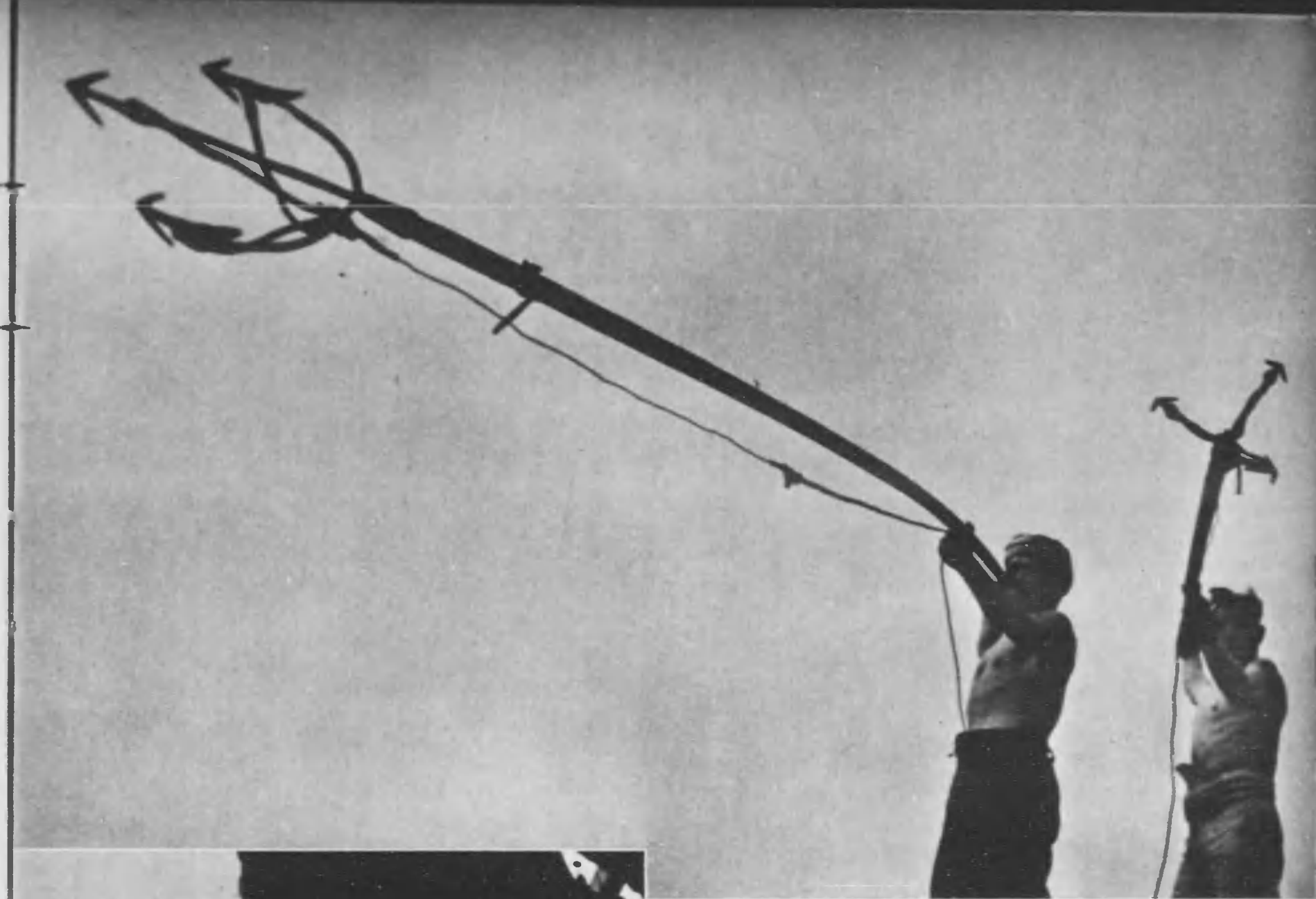
(修練生の話)
 私は、高等小学校を卒業したばかりで、何の學問もありません。然し、小さい時から、村の人と一緒に働き、一緒にくらししてきましたので、協力一致とか、共存共榮といふことが、どんなに大切なことか、よく解つてゐるつもりです。本縣の漁民は、自分達の環境に立てゝゐる、天然の恩恵になれずきました。非常時の今日、われわれは、ここで奮闘しました。今までの古い考へ方を打破、新日本水産業建設の意氣込みで、臨時下漁村の根本策を講じ、力を合せて、水産資源の開發に一身を捧げたいと思ひます。



日本青年の気魂を切先にとめて、組合も鋭く、高邁な漁民魂を磨く。船道、軍事教練も毎週十二時間の必須課目だ。



午後七時から八時三十分までは、自習又は座談の時間。身体は練のごとく磨かれてゐるが、無の、全日本の水産業を一身に擔ふ青年達は、漁業問題もとり、政治、経済の諸問題をとりへて意見をたよかはし、或ひは、青年の進むべき道に就いて、しみじみと語り合ふ。



勇壮なまぐろ獲りの實習に、若き漁夫の胸はおどりと血潮はわきあつ。南進、北進、伸びる日本の先頭にたつて、大洋に魚群を追ふその日思へば、飛ばす話にも力が入る。どんと、どんと、どんと波乗りこえて、出漁實習のさばり。船機關の操縦から、組合の經營にいたるまで、六ヶ月間みっちり實習で鍛へられてゆく。



もう、消極的な漁撈に甘んじてゐる時代ではない。これからの漁民にとつて必要なのは積極的な漁民精神である。むさぼるやうに講義へ耳を傾ける、水産日本未來の指導者達。





常夏の台湾ならではの
見られる採取「籾の子」姿
一年に二度も米がとれると
いふのだ。



生産力増充の國
策プログラムに輝
き発展する特殊産
業、天日塩製造作
業。富貴は結晶鹽
採集とその鹽の山



「台湾の砂糖か、砂糖の台
灣か」台湾の製糖業は日本
の自給自足をぐんとひき
上げてゐる重要産業だ。蔗
植付けの耕作も大規模で、
今では牛馬などの動力によ
らず、近代科擧を應用した
スチームトラウ（蒸氣動力
機）を應用してゐる。



台湾アルバイトディ
ンスト、勤務率仕の深ぐまし
い一面はこゝにもある。開
進する産業開發に伴ひ良
道路はどちらしても必要だ。



聖戰の意義を深く認識し
た島民、殊に新日本の治下
に生を享けた若き島民は皇
國に報ゆるはこの時と帝國
軍人に採用されないのでせ
めて軍夫をと、血涙の文字
をつらねて續々應募に殺
到。厳選された〇〇名の軍
夫はいま島軍將士の手とな
り足となつて大陸戰野に活
躍してゐる。



内地人タバコ移民村から
も多くの壯丁が應召出征し
た。遣された家族を助け勤
ます本島人青年團の努力奉
仕の尊い姿。後部家庭の特
有な形をした座掛はタバコ
の葉を乾燥させる仕組であ
る。



繪圖台灣



全 國 安 全 週 間

七 月 一 日 一 月 七

厚 商 生 工 省 省

第一線士の活動に後援の憂ひならしめるためには、従業者に従事するものが、國家の持つ物的資源と人的資源とを愛護活用するために萬全の努力を講じねばならない。

本年度の安全週間が、國民精神總動員の趣旨に即り「安全週刊、鉄道の乗り」を旗印として施行されるのは、従業者の災害を防止し、その保健衛生に絶段の努力をほらひ、労働力の維持増進をはかり、生産力持久の基礎を固めることが、軍國日本に課せられた、最も重要な使命だからである。

七月一日から一週間、第十一回「安全週間」を厚商生工省の主導で行ふこととなつたが、今年は何年にも比し、特別の決意を以て、安全週間の施行に當らねばならぬ。

作業場で種々の不祥事をもし出す第一の原因は、一般従業者とは異つた特殊の環境で仕事してゐるために、一寸した設備上の缺陷で、怪我をしたり、特殊の病氣になつたりするのである。

これ等の原因は、一面から見ると、管理者の責任であるが、他の一面から考へると、社會一般人の科學的知識の向上を計らなければ、眞の目的を達し得ない。

安全週間は、決して作業場内の問題だけでなく、一般家庭に於ても留意しなければならぬ。この機会に、一般の人々にも、安全週間の意義に對して、關心を求めたいと思ふ。

災害の第二の原因は、従業者の不注意である。一般社會では、習はれないやうな、ちよつとした過失からでも、作業場では、大怪我をすることがあり、又ある人が一寸注意してくれなかつたために、隣りで作業してゐる人に大怪我をさせることもある。お互ひに他人の安全のために注意しませう、自分も他人から注意して貰ひたいからといふ精神が、職業安全教育の指導精神でなければならぬ。そして、この安全協力精神は、家庭にも、學校にも、あらゆる社會生活に及ぼされねばならぬ。

これらの目的を達するために、七日間を、安全週間とし、検査日、清掃日、健康日、訓練日、日本全國の工場、事業場、作業場に於て、種々の行事が企てられる。非常時の今日全國民も、この行事の意義について十分理解され、後援されることを期せよう。



七月七日の報國宣言日は、今次事業の發端清掃事件の記念日にあたる。この日を期して、全國の労働者諸君が、労働報國の誓ひをなすのは、まことに意義のあることである。

征くも守るも心は一つ、産業戦線の尖兵たる誇りと、安全週間に高揚した決意をもつて、長期戦をたゝかひ抜かう！

一人の怪我は、全職場で、その機械の操作をきらふやうになる。いきほひ、生産能率は低下してゆく。

安全装置費は、立派な生産費だ。鉄後の人的資源をまもり、働きたい職場をつくるのは、管理者の義務である。

検査点検日

怪我は、些細な設備の缺陷から起きる。みんな、身體を大切にしなければならぬ。今日、たへず機械の検査点検に力をいれやう。又、管理者は、権力、設備改善につとめなければならぬ。

清掃整頓日

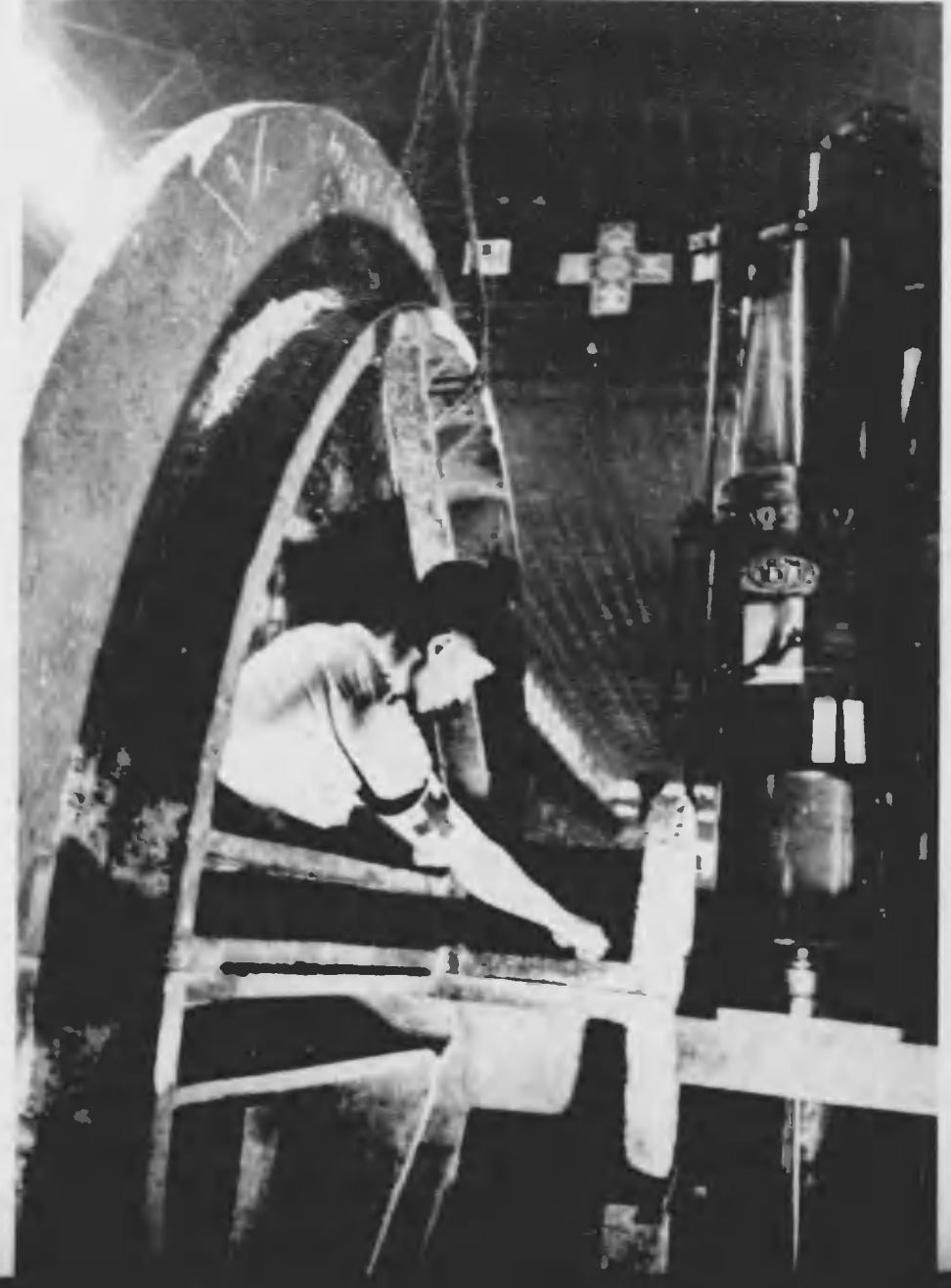
規律ある生活に、先づ清掃整頓が必要である。又、今の日本に乏資源である。清掃と同時に、どんな小さな設備でも、一定の容量に入れる習慣をつくらう。

保健衛生日

非常時の労働力の消耗をふせき、體位低下をふせぐ爲に、體育の訓練を心がけよう。

早寝、早起もいゝ家族みんなでビクニツクに出るのもいい。すべて日常の保健が大切だ。

それと共に、警察保健設備を完備しよう。たつた一つの天井より垂れる一吸上り式除け煙が、數千人の保健に、どんなに役立つてゐることか。



職地の負傷は名譽だが、職場の負傷は産業戦士の恥だ。あやまつて怪我した時は、直ちに警察署で十分の手當をうけやう。

又、工場、作業場には、警察設備を完備、働く人を保護から護らう。





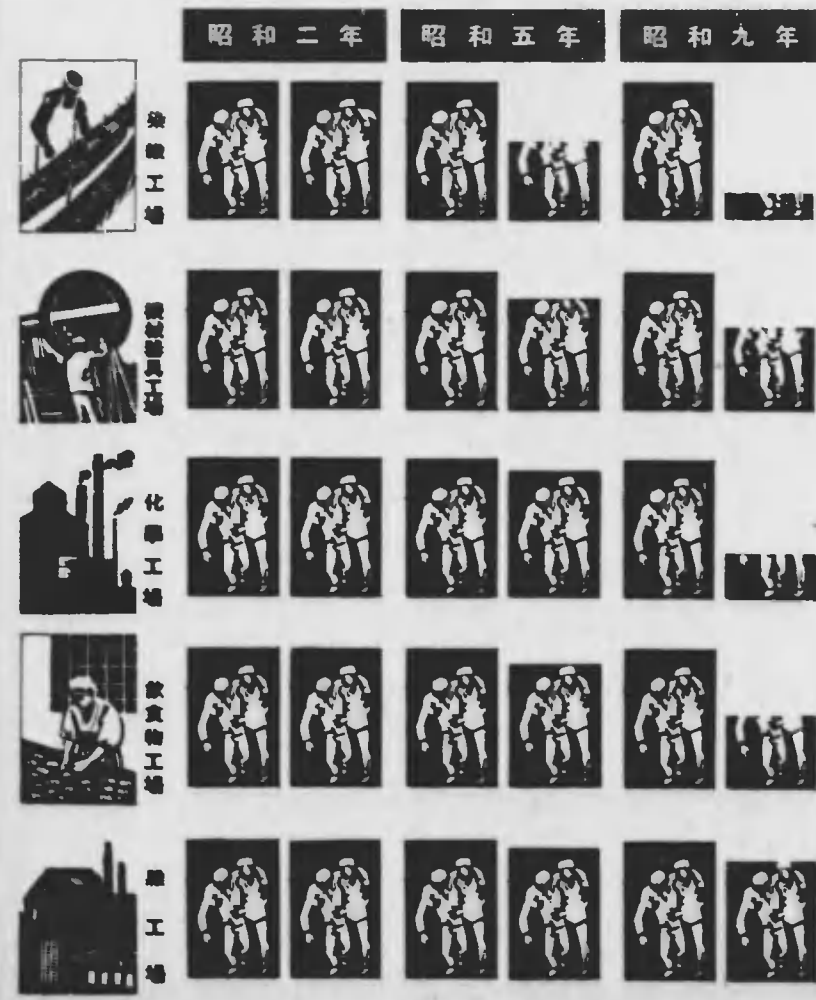
安全教育は、大切な基本教育だ。
ちつと、職工長の説明に耳を傾ける少年工。器具の扱ひ方と共に、安全教育がほどこさ
れ、同僚作業をさけるすぐれた労働者魂が培はれる。



規律訓練日
無敵暴軍をつらぬく厳しい軍隊、連の組織——連生活に最も必要なのは規律の厳守だ
防火、避難、防空等の演習を行つて、鉄後の通りに備へると共に、無敵暴軍をつくるべ
く、統制された行動を訓練せよ。

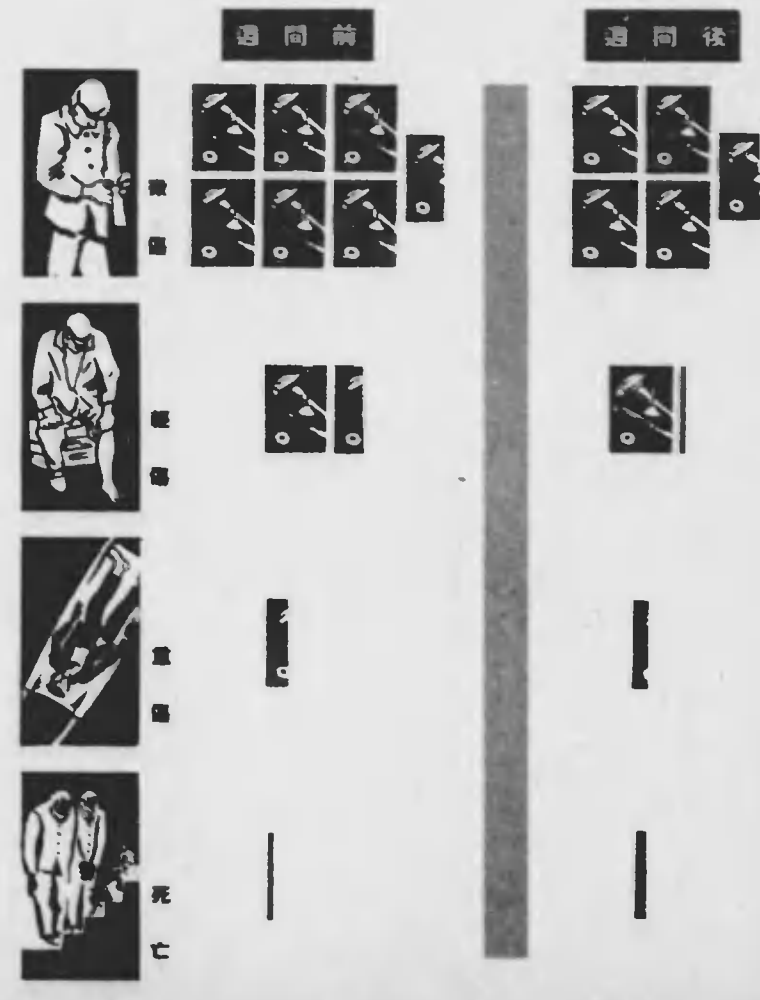
安全運動開始以来 全国産業別災害率推移比較

(単位 10パーセント) (協同会調査)



第八回 昭和十年 全国安全運動成績概要

(単位 一萬一人) (協同会調査)



少年少女の見送りに、安全報國を誓つて、入坑する炭坑夫達。安全祈願日には、不幸作業の犠牲となつた先輩の冥福を祈ると共に、わが身の安全を祈願せよ。人的資源総動員に参加、生産力擴充の輝く戦士となるために。



精神修養日。茶の湯に日本精神をみかき、東京モスリン紡績工場の女工さん達。身體と共に心を鍛へ、前線將士の覺悟を以て、毎日の作業に全身をうちこまう。





⇨ 起床から就寝まで媒介は凡てラッパ、そのラッパの音と共に製材、木工、印刷、洋装等の各種作業場に勇躍出かけるのはこの廊下を通つて。彼等の和協一心の勞務の結晶は戦線に送る弾薬箱となつて山とつまれた。



⇨ 鉸縫に経験あるものは洋装を、印刷に心得あるものは印刷を。しかし、これと云つて別に手に職をもたぬ者は、まづ木工の訓練が行はれる。鉸の引き方、釘の打ち方から一日も早くお役に立ちたい一心が、めき／＼と腕をあげてゆきます。と語る指導者の聲も明るい。



⇨ 工場の一つでは兵隊の部
分品も製造されてゐる。



⇨ 山と積まれた架橋材料、その一つ一つに手斧を振ふ渾身の力。世界戦史に輝やく皇軍の敵前架橋の成功に、君のその力もあづかつてゐるぞ。



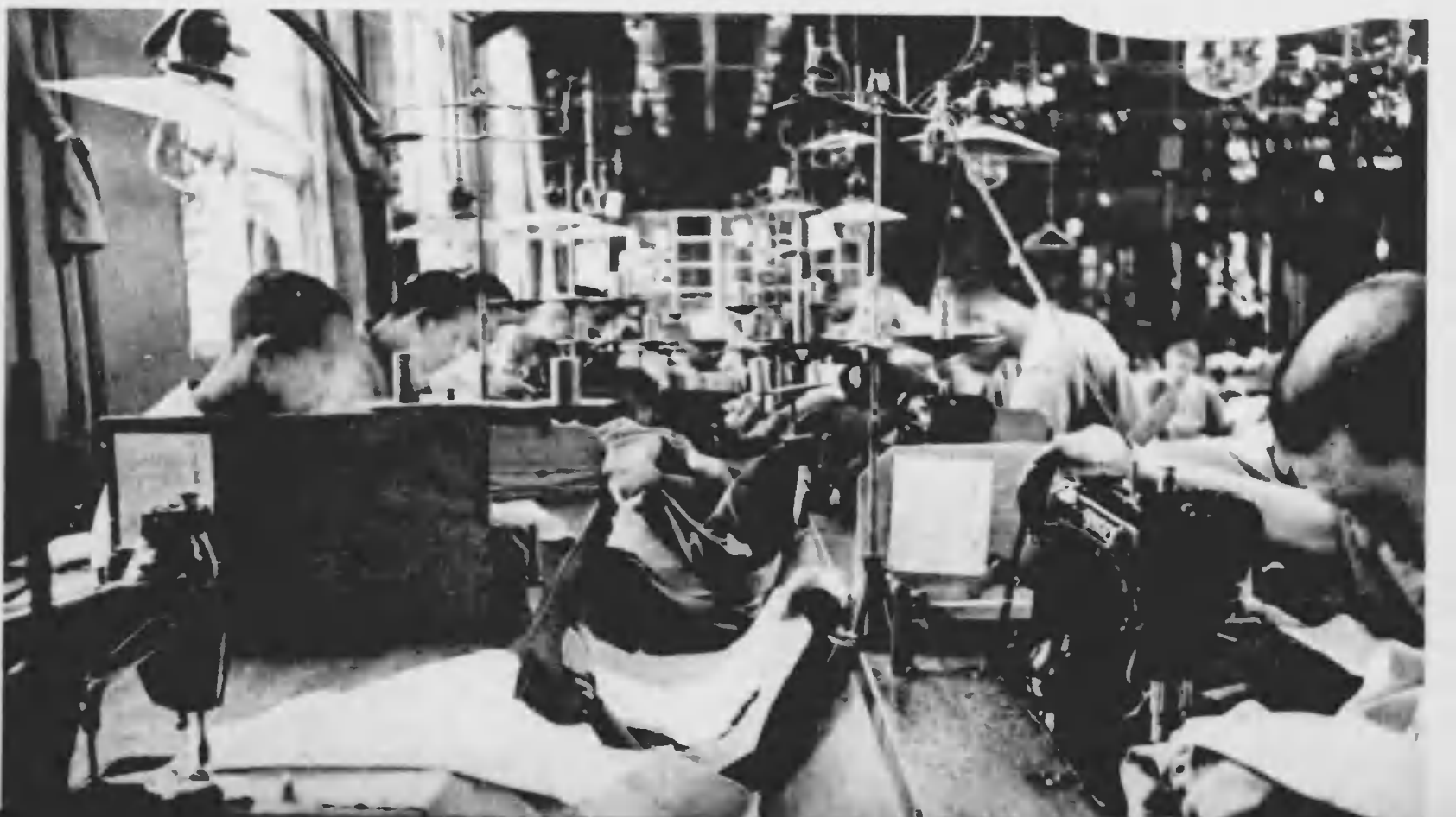
戦ふ力はこゝに も 小菅刑務所

司法省

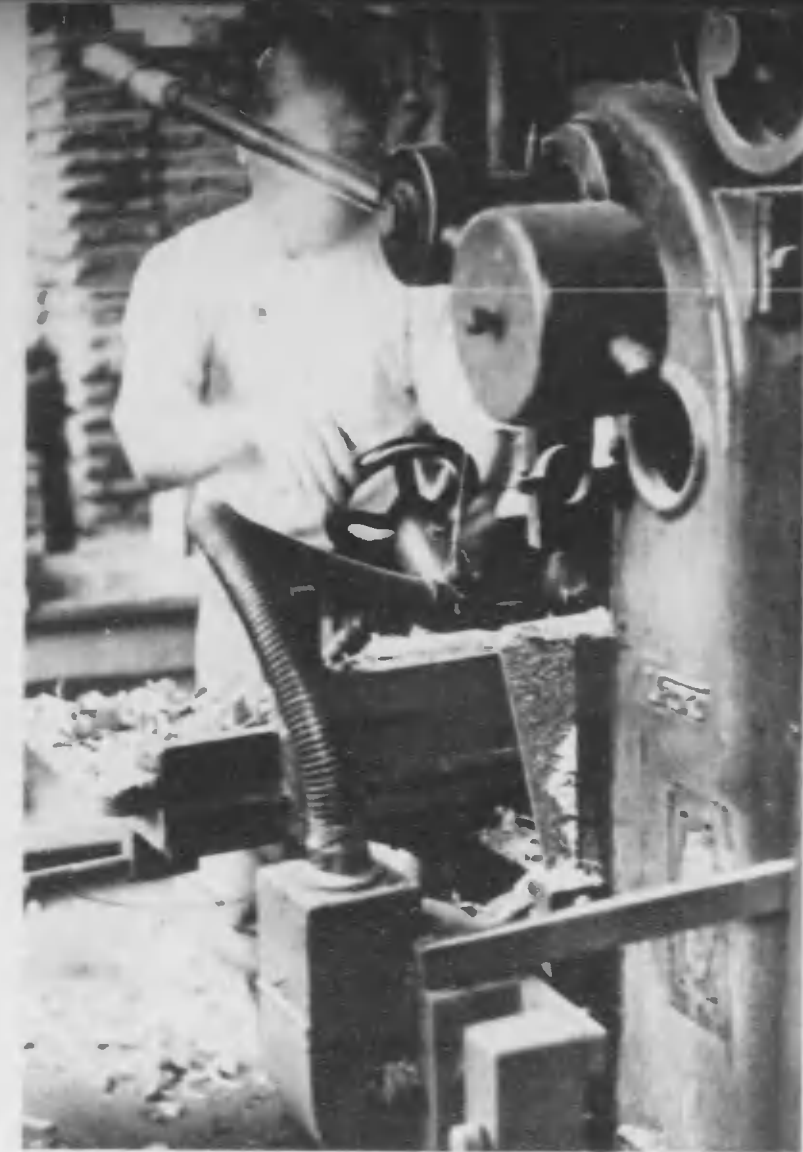
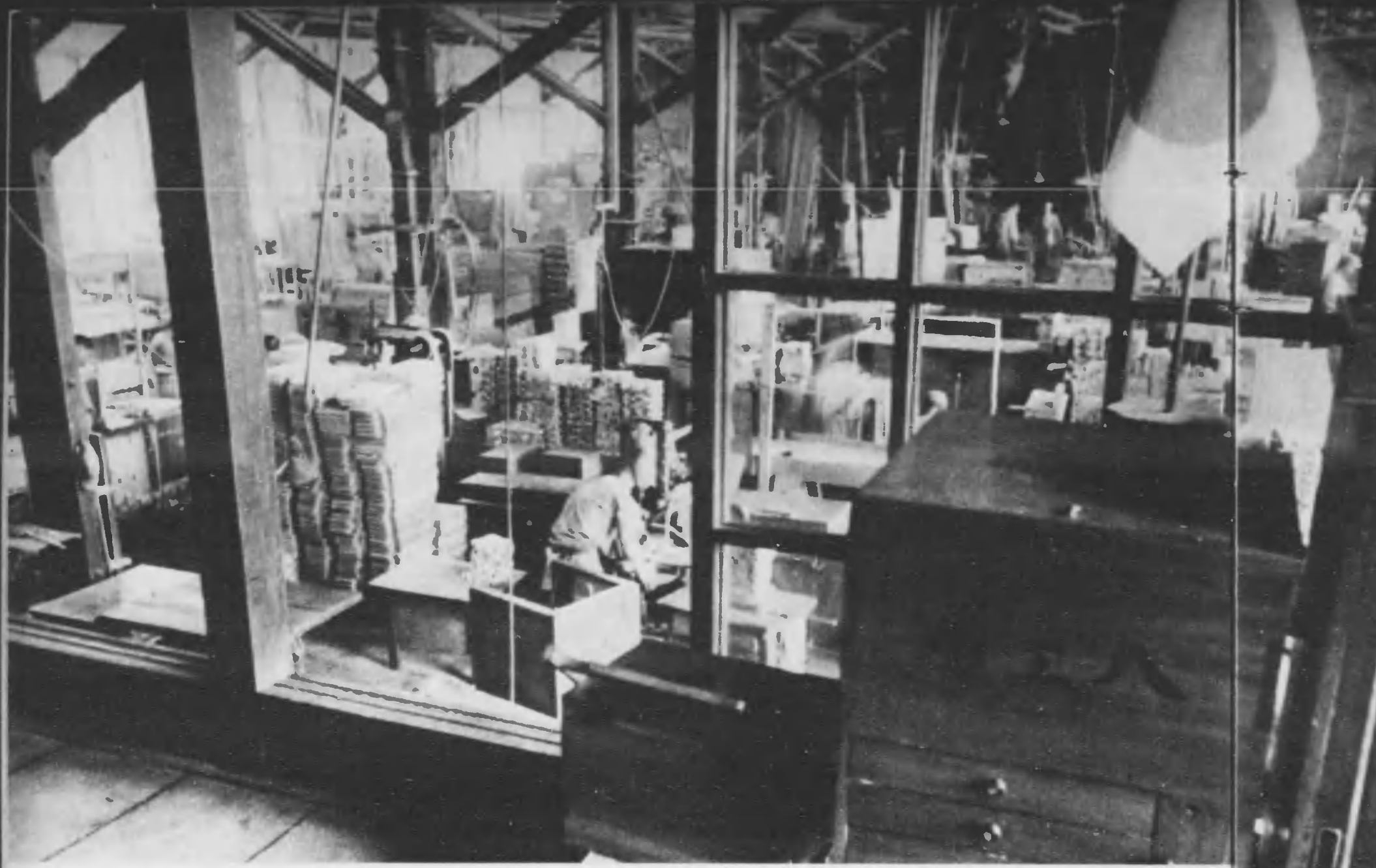
徐州落ち、臨海防衛も、更に敵の本據漢口へ、戦線の勇士は勿論、戦後の國民も擧つて大陸の勇士に力を合はせ心を一つにして、大和民族の雄大な使命達成に邁進してゐる。不幸にして罪を犯し、社會と離れて囚徒にある人々。犯した罪の輕きに、出征の兄、將た友に、懇切の聲も送られず、勝利の報に、歡喜の祝杯もあけえず、たゞひたすら、悔悟と、規律と、勞働の日々を黙々と送りつゝある身に、果してどんな戦後の務めが與へられてゐるか。そして又、どんな氣持でその務めを果しつゝあるだらうか。

六月の太陽が燦々と照りそゞろ、額に汗を流すある日、東京市葛飾區、荒川放水路畔にくつきりとモダン建築の聳え立つ小菅刑務所を訪ねて来た。

こゝには七年以上の重罪に問はれた不幸な受刑者が、或は強盗、或は強姦、或は軍用電柱の製造に、或は軍服、軍靴、軍帽の縫製等に一心不亂身を砕いてゐる。支那事變が勃發し、皇軍が破竹の勢で抗日支那を席捲しつゝあるの報もたらされたとき、受刑者たちの血は湧き立つた。われらも戦地に「一國を思ふ國民」としての熱誠に何の震りがあらうか。だが不幸な現實はかれらをして戦ひの第一線に立つことを許してくれない。唯徒らに愛國の血潮が内に燃えたるばかりである。しかし、思ふはこゝにも恰く、戦の陣に立ち得ない者に、戦ひの務めは與へられた。軍用品の製造である。受刑者たちは勇躍した。せめて、せめて犯した罪の償ひにと、今、彼等は明日の太陽を待ちつゝ、たゞ一寸の命の働きをつとけてゐる。



⇨ 勇士の軍服はわれらの手で——ミシン掛けにも、かきりにも、縫ひこむは男子の赤心。軍服よ、俺の代りに戦つてくれ。眞摯な情眼を見てみるとさうした無言の聲が聞えて来る。



穴あけ機械作業
切子をあて、ハンド
ルを廻せばバラツツ
と飛び散る木屑。
ひるの食事の時間に
開いた開封占領の勇し
スユース。敵の弾雨
を飛び散る木屑が射
させる。

午後二時、休憩の時
間となれば、ラッパ手
を先頭に、全員隊伍整
堂進軍所前の廣場に行
進、列をとけば、六月
の徳々たる太陽を浴び
て戶外運動が始まる。
縮々として球を投げ合
ふ姿を見よ。これが七
年以上の受刑者と見え
やうか。否、否、身は
たとへ受刑者でも、心
は銃後を護る赤心た
一寸ち、浴びる太陽に
輝やく明日を持つ。

弾薬箱製造用の
材料板
「丸籠」係りが板を挽
けば、運搬係りが次か
ら次へ積みあがる「い
いか」「よし来た」聲
こそ出さね、とけ合ふ
心と腕が仕事を運ぶ。



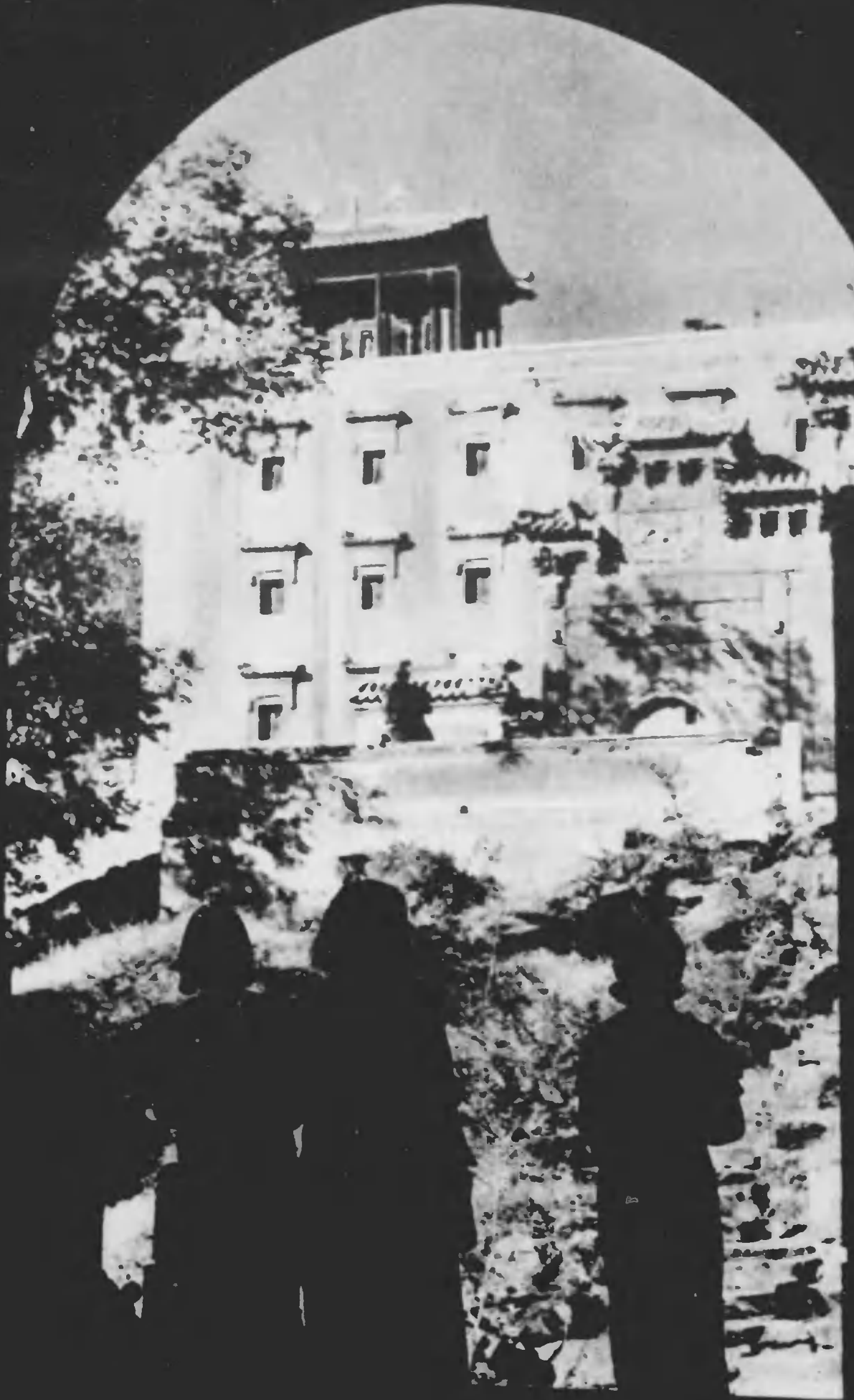
鍛冶工場、製材工場、木工場
どの一つを見ても堂々たる大
工場、黙々と働きつづける。
いづれも立派な熟練工、贈卵
の道場はいま銃後の日本を護
る一大生産工場だ。監督者の
部片を飾る日の丸の国旗が緊
張した工場内の空気を反映する。

丸籠作業、バンド機械作
業、穴あけ作業を経て弾薬
箱製造は最後の工程だ。ト
ン／＼と打ちこむ釘に贈卵
の念はこもる。戦地の勇士
を思ふ心は溢る。

出来上つた弾薬箱はトラ
ックに山とつまれて次々と
運び出されて行く。われわ
れの手でこしらへたものが
戦地へ行く。あゝ、たとひ
わづかでも皇國のために盡
し得た。感激にもえる眼が
ちつと涙を見送る。



觀光滿洲



熱河承德拉嘛喇

滿鐵鐵道總局

内地・朝鮮より
往復・回遊汽車賃
單 馬 二 三
圓 圓 五 五
五割引以上

詳細は
滿鐵鮮滿案内所へ
東京丸ビル 同會館裏町
大塚駅前 門司駅前
下關駅前 新潟古町通

(本書の大きさは縦定規格A4・通帳二倍也)